

# 寺子屋と塾

## 郷学谷村興讓館

『読史総覧』によれば興讓館は、

創立 天保十三年  
位置 幕府管轄甲斐谷村  
設立者 代官と民間有志との協力  
維持方法 民間の寄附六百円の維持資金設定  
目的 平民の子弟教育  
科目 漢字習字詩文

とあるが、天保十三年、時の代官佐々木道太郎が設置したのは、一般庶民教化のための教諭所で、これは社会教育の機関というべきものであった。これを強化し、進んで庶民の子弟のために、教授を置いて、継続的に教育するように改めて、嘉永四年、開館の式をあげたのが興讓館である。

『山梨県史』には

興讓館ハ嘉永四年創立スル所農商の贖金ヲ以テ共立スル者ニシテ皆経史ノ素読及習字を授ケン者其ノ保護監督ハ旧幕代官ノ管スル所ナリ

とある。

興讓館は創立してから二十年間、教授の交代四代に及び、郡内教育振興のために尽くした功績は大きいものであった。

初代教授 兩宮哲助	(嘉永四年九月まで)	十二ヶ年
二代教授 榎田斯興	(文久二年より元治元年まで)	三ヶ年
榎田は辞任後、学区取締となり、続いて、小沼・谷村に私塾 盞誓学館を創設した。		
三代教授 田村諱一郎	(元治元年より明治元年まで)	五ヶ年
田村は辞任後、市川学校の訓導に就任し、ついで、山梨師範学校教諭教頭となる。		
四代教授 笠井光謙	(明治五年より明治五年まで)	五ヶ年

笠井は谷村の有志とはかり、西涼寺に私塾瓶城学館を創設し、その館主となる。

注 興讓館のこと (P30) 田村諱一郎 P26 兩宮哲助 P33 榎田斯興 P45 笠井光謙 P47

### 維新後の興讓館

明治政府の発足により代官の手を離れた興讓館は、明治元年(一八六七)鎮撫使柳原前光が、石和、市川、西野とともに、谷村へ郷学を置くにあたり、本館がその事務を扱ったといわれているが、はたしてどの程度のものであったか判明しない。しかし、明治四年新政府の指導により興讓館が公立小学校となる機縁は、この時に作られたではないかと思われる。谷村小学校の前身について『山梨県史』は、次のとおり書いている。

#### 明治四年私立郷学

一、都留郡 谷村 老校

旧幕政中民庶ノ醸金ヲ以テ建設シ皆経史ノ素読及習字ヲ授ケシ者今学則校則等詳ニスルヲ得ス 明治四年小学校トナル

#### 小学校

明治四年十二月 日 詳 谷村学校ハ嘉永四年 月 日 詳 創立スル所農商ノ醸金ヲ以テ共立スル者ニシテ其ノ保護監督ハ旧幕代官ノ管スル所ナ

谷村興讓館 甲斐国都留郡谷村

- 一、小訓導 支那学手跡 興讓館 笠井謙次 但彦歳 金七両 式人半扶持
- 一、通学生徒 三拾人
- 一、教官給祿凡二拾五円
- 一、一歳費用凡二拾五円

明治四年十二月 郷学興讓館は新政府の指導により、公立の小学校となり、その費用年間およそ二十五両、県もこの経費の一部を負担したと思われる。即ち、明治四年県から文部省への報告書の中に、「徴典館外三館(市川、石和、谷村)入費の儀は、兼ねて被仰出の通り、管轄高一万石に付、現米一石五斗の割を以て用途に充候而已にては、不足致候間、国内富民の差出し候金を管下の者へ貸附、右金利を以て不足を補い云々」とある。

因に、明治四年山梨県下の小学校は、その地に郷学をもっていた谷村、石和、西野、台ヶ原に創設され、ついで明治五年五月二十七日県下に十数校設立され、都留郡下には上野原と吉田に設立され、春秋の試験は学正監護の中一名が出張して、都留郡下の三校は、その中央である谷村学校で行われたのである。